

むつ市立大平小学校「ユメココ教室」で大工の仕事を紹介しました

令和3年11月30日（火）むつ市立大平小学校の5年生82名が将来の夢について勉強する「ユメココ教室」に講師として行ってきました。木造建築科の2年生も作業のサポート役として参加しました。当校はものづくりをとおして大工の仕事について説明し、児童のみなさんには、大工の歴史をはじめ、大工道具の説明やかんな掛け、釘打ち体験を兼ねてベンチ作りを体験してもらいました。



今回参加した「ユメココ教室」は、子どもたちがふるさとに愛着を持ち、社会的・職業的に自立していくために、学校・家庭・地域が連携してキャリア教育に取り組んでいくことが求められており、地域の様々な職業の方が自分の仕事への思いや苦勞、やりがいなどについて自分の仕事の内容を語る「ユメココと〜く」や体験を通して、子どもたちが生きること・働くことについて考えるきっかけづくりのために開催されているということであり、大工職種の他に自衛官、警察官、消防士、林業、美容師、シェフ、スポーツインストラクター、ITエンジニアの方などが講師として参加していました。



体育館の大工のブースには大工の仕事に関心のある児童が集まり、初めて触るカンナや電動工具の使い方について真剣な眼差しで説明を聞いた後、実際にカンナやかなづち（玄能）を手にして、ものづくりにチャレンジしてもらいました。はじめは緊張していたようですが、カンナ掛け体験で材料のヒバを削ったりベンチの製作をしていくうちに緊張も解け、カンナくずの長さを友達と競争したり、ベンチの部材を友達と協力して取り付けている真剣な顔がとても印象的



このような事業を通じて、子どもたちが勤勞観や職業観を身に付け、社会で自立して働くことができるよう、地域の大人たちが協力して発達の段階に応じたキャリア教育を推進していくことはとても大切なことだと思います。今回、ユメココ教室に参加していただいた子どもたちには「モノを作って頑張った後はスッキリするんだ」とか「家を作る仕事はお客さんに感謝される仕事なんだ」とか「大人になるってワクワクするな!」ということを感じてもらいながら、未来へのイメージを広げて次の段階となる中学校での職場体験学習につなげてほしいと思います。